

令和 7 年度 学校経営環境分析書

郷原中学校区 校番 6 学校名 呉市立郷原小学校

1 学校の内外環境の分析

外部環境	O (支援的要因) ・地域住民がボランティアで毎日、登校指導を行う。 ・交流可能な社会福祉施設が多い。 ・田や畑、城山、黒瀬川等の自然環境に恵まれている。 ・祭り、とんど、盆踊り、町民運動会、ロードレース大会等、地域住民が参加できる行事が多い。 ・保小中が連携して、月に一度情報交換をしている。 ・地域に多様な趣味と特技を持ち合わせた人材が多く、学校教育活動のゲストティーチャーとして協力的である。 ・保護者による朝の絵本の読み聞かせの参加、球技大会など PTA の活動が盛んである。	S (強み) ・「郷原っ子の花」の資質能力を児童が意識して取り組めている。 ・スタートカリキュラムに学校で組織的に取り組んでいる。 ・全校で自主学習に取り組み、交流を行っている。 ・学力向上のため、城山タイム、振り返りの時間を設けている。 ・「郷原っ子体操」や体力づくりの宿題の継続等により、積極的な体力づくりを推奨している。 ・生活リズムチャレンジ週間の取組により、小中一貫して健康づくりへの意識付けができています。	内部環境	支援的要因と強みを生かした活動・取組は ・異学年交流・校種間交流を意図的・計画的に仕組み、中学校区で定める資質能力を育てる。 ・生活科と総合的な学習の時間では、郷原地域の人・もの・こととの関わりを深め、学習内容の充実を図る。 ・学力向上のため、チャレンジタイムや城山タイムに計画的に取り組む。 ・目標を設定し、振り返ることで、社会性や感謝する心や相手を思いやる心を育てるとともに自己肯定感を高める。
	T (阻害的要因) ・商店や公共交通機関を利用することが少ないため、社会体験の機会が少ない。 ・国道の交通量が多く、歩道が狭いため、交通事故のリスクが高い。 ・川、用水路、ため池が多く危険である。 ・地域の公園ではボールを使った遊びができないなど、自由に遊ぶことができる場所がない。 ・大きな団地が 2 つあるが、近隣者同士のつながりが薄い。 ・や学校への依存が大きい保護者が多い。	W (弱み) ・返事、挨拶が増えてきたが、まだ徹底できていない。 ・自分の考えを進んで表現する力に課題がある児童が多い。 ・基礎的な学力と思考力が充分身に付いていない児童もいる。 ・相手のことを考えて適切に対応する力が弱く、トラブルが起こることも多かった。 ・学校生活のきまりを守ろうとする意識が低い児童もいる。 ・日常的に、メディアを長時間使用している児童もいる。		阻害的要因と弱みを克服する活動・取組は ・基礎学力と思考力・表現力の向上を図る。 (城山タイムの実施、帯タイムの充実・校内研修の充実) ・全ての教育活動を通して、返事・挨拶・規範意識を育てる。 ・生徒指導の 3 つの機能を全教育活動に生かす。事前指導をして活動後に教師が評価をすることで規範意識を向上させる。 ・学校だより、学年通信、HP など、学校の情報をより多く発信する。

2 重点課題

- ① 児童が主体的に学習へ向かい進んで表現することのできる教育活動を行う。
- ② 生徒指導の三機能を生かした指導を行い、児童の自己肯定感・自己有用感を育てる。
- ③ 運動する楽しさや心地よさを理解し、自らの課題を改善するために進んで行動できるようにする。